



## § 1. 近年多発の難防除雑草「ヒレタゴボウ」対策

ヒレタゴボウは熱帯アメリカ原産のアカバナ科チョウジタデ属の一年生草本(別名:アメリカズキンバイ)です。在来種のチョウジタデ(別名:タゴボウ)に類似していますが、葉の基部が茎の稜に続いていて翼(ヒレ)のようになっていることから「ヒレタゴボウ」の名称になっています。しかし、花径は大きく2cm程度、花弁は4枚で、8月から9月にかけて花が咲き、群生していることが多い草です。



日本においては、1950年頃に四国で発見され、現在では関東以西の水田や湿地帯で群生しています。草はよく枝分かかれし、高さ1m以上になります。しかし、環境や季節によっては地面すれすれでも開花することがあります。特に田んぼにおいては、一般的に移植後湛水深があればほとんど発生しませんが、田面が露出する中干頃に発生してきます。その他にも、水田畦畔や水稲の刈後、秋起こし後の圃場でも発生がみられます。難防除雑草の一つで、防除するには時間と労力が必要となります。



茎はさかんに枝分かかれしとても大きくなる



茎の角の部分にヒレがある

### ＜田んぼにおける防除＞

発生時期が遅いので、植え付け直後の除草剤だけで発生を抑制することは難しく、中干後に中後期剤を使用する必要があります。また、一年生雑草なので、種を落とす前に除草することで翌年の発生を抑えることが出来るので、特に刈り取りの遅い圃場や、畦畔に発生した場合には早めに除草しておくことが肝要です。また、発生が多かった圃場では、刈後後に除草剤散布をすることで、翌年の発生密度を抑えることができます。

⇒刈後後除草剤「プリグロックスL」と「カソロン4.5」については§2で説明します。

\*チョウジタデ(別名:タゴボウ):ヒレタゴボウとは似ていますが異なる在来種の一年生草本。アカバナ科チョウジタデ属の一年生草本で、北海道から沖縄まで日本各地の水田や湿地



に生育します。茎は緑色で赤みを帯びることが多く、葉は互生。花弁が4~5枚の黄色の花をつけます。花後の形が香辛料に使われるチョウジに似ており、全体の形状がタデに似ていることから「チョウジタデ」の名称になりました。

## § 2. 水稲刈り跡後の雑草防除対策

### A) プリグロックス L 水稲(刈跡後)の使用について

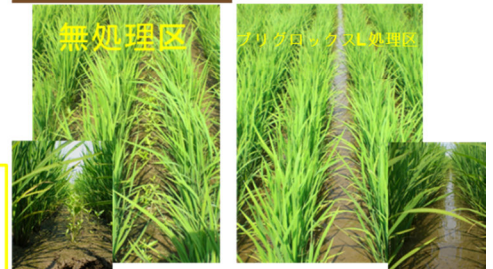
ノビエをはじめとした一年生雑草が問題となっている圃場にはプリグロックス L を使用します。雑草の残り株を除草でき、越年株を残すことのないようにします。ノビエやひこばえの立毛中の種子やこぼれ種子に対して種子発芽後枯殺効果を発揮しますので、次年度対策ができます。

\* ヒレタゴボウ多発圃場においてプリグロックス L の使用により種子形成を阻止できます。

1. プリグロックス L を 100% の水で希釈し散布する
2. 秋起こし前に散布する
3. 畔にも散布する(越冬ウンカ対策にも効果があります。)

#### プリグロックス L 水稲刈後除草での上手な使い方

稲刈り後から、耕起前までに、プリグロックス L を散布してください



かかった所に作用するので、たっぶりの水量でムラ無く散布することが大切です

10 aあたり1,000m l (1L)の薬量と100Lの希釈水量をおすすめします。  
毎年継続して散布することで埋土種子を減らすことができます

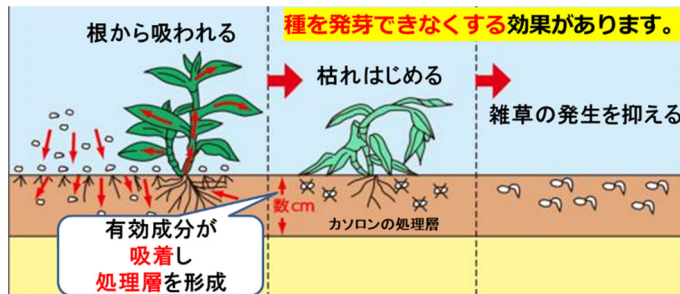
### B) カソロン粒剤 4.5 水稲(刈跡後)の使用について

カソロン粒剤 4.5 を水稲刈取跡に 3kg/10a をムラなく散布する事で翌年の雑草を減らす事が可能です。処理後土壌が湿っている場合に土壌の有機物に吸収され処理層が形成され、その中にある雑草の種子を発芽不能とし、小さな雑草には根から吸収し枯らします。ただ枯れ始めるまでに 10~14 日ぐらい必要です。また、畦畔除草(8~12kg/10a)にも使用可能です。

水稲(刈取跡)の登録ですが、10a 当り3kgの処理量で使用時期は秋期(年内の散布)になります。使用方法は全面土壌散布ですが、出来るだけムラになりやすい手散布は止め、散粒機等の使用をお勧めします。

※水稲(刈取跡)に使用する場合、特に以下のことに注意してください。

- ①本剤散布後の圃場は翌春までそのままの状態が最も効果的で、散布後は秋耕しないでください。
- ②翌春、水稲以外の作物を栽培する予定のある場合は使用しないでください。



作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	使用回数
水稲(刈取跡)	水稲刈取跡	一年生雑草	水稲刈取後 秋期雑草発生前~ 発生始期	3kg/10a	1回
水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 (まめ科を除く)	秋冬期 ~ 春期 (雑草発生前 ~ 発生始期)	6~12kg/10a	1回

← 水稲刈取跡 →



~上手な使い方と注意点~

- 12月上旬頃までに散布!、● ドローンでの散布も可能、★ 散布後は秋耕しないでください!
- 翌春、水稲以外の作物を栽培する予定の場合は使用しないでください。

